

プログラムを終えた企業経営者の声

生産性向上が必要なことはわかっているが、何からすべきか、どうしたらよいか、ここで停滞して、その先に進まないでいた。今回、生産性悪化の兆候を多く抽出できたことは、驚きである一方喜びでもある。次にすべき計画もはっきりしている。さらなる指導を頂き、従業員及び経営陣一緒になって、この課題をクリアし成功を勝ち取っていきたい。(A社)

改めて当社の取り組みが中途半端なもので、実行性に乏しかったことを確認した。長年苦しんできた問題に対する的確な指摘とこれに対する改善計画を提案頂き、やるべき事、進むべき方向がはっきり見えてきた。国際事業化研究センターの指導に沿って、誠意を持って実行・努力していきたい。これにより会社の継続的な発展と社員のやりがいを高揚させ、ひいてはこの地域に貢献できる企業になりたい。(B社)

外部からの新しい見方（いろいろな指標を含め）があり刺激となった。良いところ、悪いところをはっきり言っていただき、また理由も説明していただいたのでわかりやすかった。頭ごなしに批判せず、背景も理解しようとしていただけだったので話しやすかった。通常の業務に加え、調査や資料作りが大変であった。(C社)



全体最適の視点で



企業での高度な技能や豊富な職務経験を持ち、山形大学シニアインストラクター養成スクールにて経営視点での「顧客に向けた価値の流れづくり」を身につけたシニア（上級）インストラクターが、経営全体を俯瞰し、貴社と一緒に収益性改善に取り組みます。

チーム体制で

多様な視点で、全体把握・ムダな流れの抽出と分析を行い、数値に基づいて、見える化・分かる化し、「ありたい姿」の実現に向けて、より具体的な、より実現性の高い改善策の提案をチーム体制で行います。



◆問い合わせ先◆

〒990-8555 山形市旅籠町二丁目5番12号
山形放送イノベーション事業部内
山形県生産基盤強化支援協議会事務局 担当：渡部



←支援協議会HP
指導申込書の
ダウンロードはこちら

TEL：023-664-0190 (山形放送イノベーション事業部)

FAX：023-622-8480 メールアドレス：watanabe-e@ybc.co.jp (渡部)

令和6年度版

企業の生産性向上 収益改善をご支援いたします

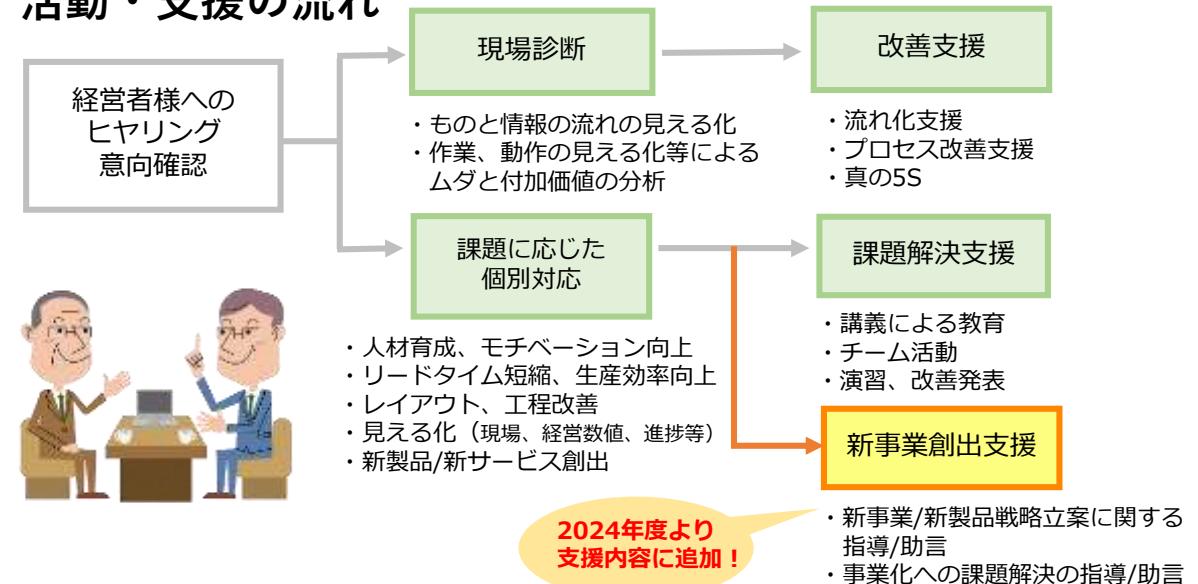
支援企業
募集中

業務のムダ時間を見える化して分析！ 改善へのご支援をいたします

成熟社会となった日本…
成長の停滞に伴い、未来への投資が減少、真面目に働いているのに賃金が上がらない要因のひとつとして、成長期から現在までの「仕組み」や「習慣」により、ムダな仕事が増えていることが考えられる。
顧客にとって価値を生む時間、それ以外のムダな時間を分析し、見える化することが改善のカギになる！



活動・支援の流れ



販路開拓
支援

わたしたちは
山形県生産基盤強化支援協議会 です！

経営改善

生産性向上

山形大学

山形県銀行協会

技術相談

リードタイム
短縮

公益財団法人
やまがた産業支援機構

山形放送

人材育成
モチベーションUP

山形県内の企業（製造業）を対象に、現場診断や課題解決を行い、雇用の創出や生産性向上、従業員のモチベーションupによる収益改善をご支援いたします！（詳しくは内面の募集要項をご確認ください。）

リーンマネジメント の考え方と必要性

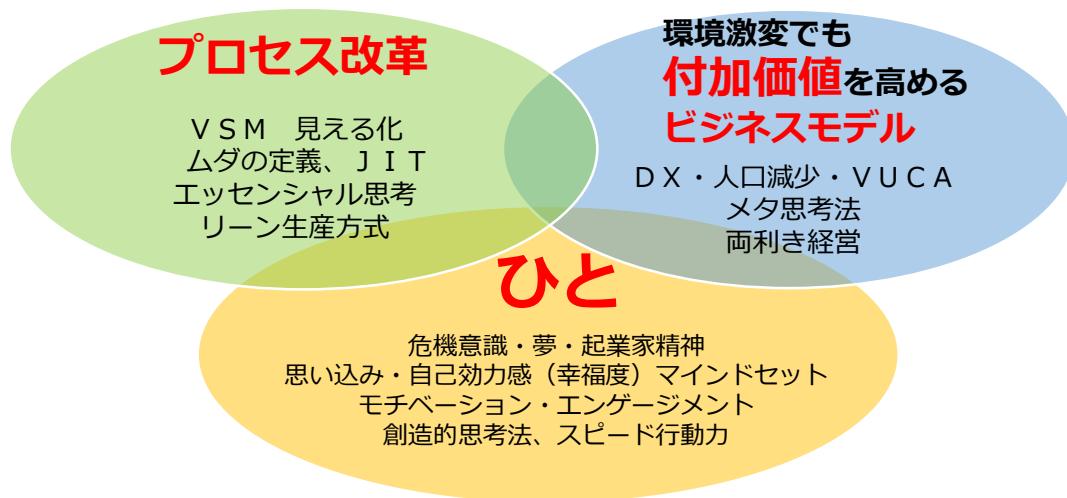
【リーンマネジメントとは?】

プロセス管理を徹底することで、製造やサービス工程において一貫してムリ・ムダなく最適な活動を行い、**最小限の経営資源で最大限の「顧客価値」を提供する**ことを目的とする経営を行うこと。

「リーン」とは、「贅肉が取れた」「ムダのない」という意味。ありたい姿を明確にして、3つの本質的な考え方によって構成される経営手法。

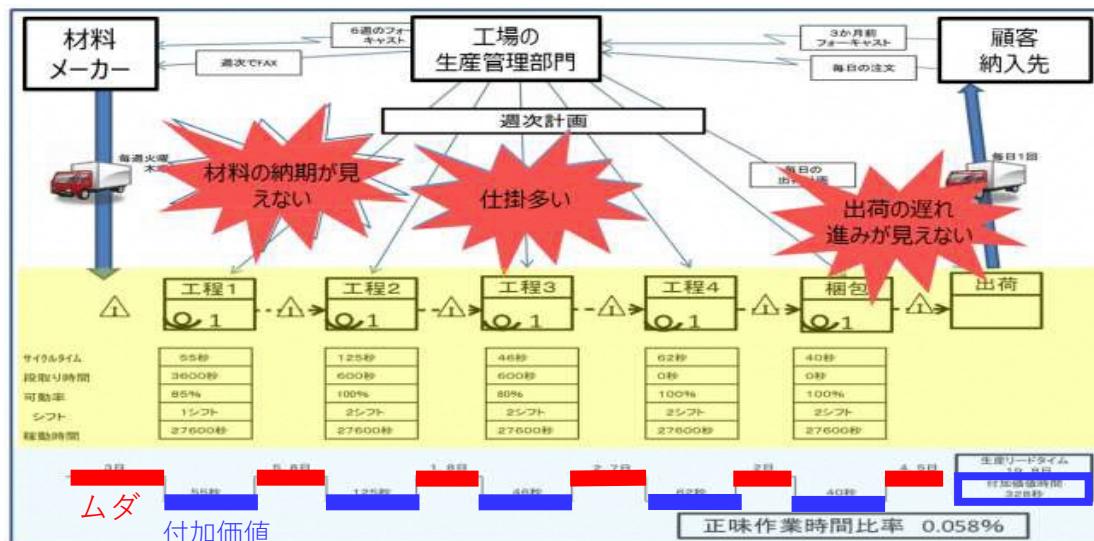
- ①顧客の視点から価値を提供する
- ②価値をもたらさない無駄を排除する
- ③継続的に改善する

すべては豊かになるために！



現場診断の手法： モノと情報の流れ図（バリューストリームマップ）の活用

- ・VSM（モノと情報の流れ図）を使い、工場全体の流れ・課題を見える化する。
- ・ムダと付加価値を切り分け、比率を分析する。理想は各工程間の距離、仕掛をゼロに近づける。



～ 事業概要 ～

1. 事業の目的

山形県内企業の経営基盤や生産基盤を強化し、EV（電気自動車）化など新分野への進出による雇用創出につなげるため、専門家（アドバイザー、インストラクター）が企業の生産性向上、収益改善などを支援する。

2. 実施機関

山形県生産基盤強化支援協議会
生産基盤強化事業を推進し、各企業の多様化する課題やニーズに対応するため、2022年2月に設立【参画機関】山形大学、公益財団法人やまがた産業支援機構、山形県銀行協会、山形放送

3. 事業の概要

(1) 活動内容

山形県生産基盤強化支援協議会のアドバイザーやインストラクター（山形大学の養成スクールを修了）が企業を訪問し、経営幹部へのヒアリングや現場診断により課題を「見える化」した上で、リーンマネジメントの思考法・実践方法に基づき、現場巡回・講義・グループ活動などの取り組みを行い、生産効率化・収益性改善・従業員のモチベーション向上など各企業の課題解決を支援する。各企業のニーズや課題に応じ、協議会の参画機関も支援に協力する。

(2) 対象企業

山形県内の製造業で、事業の多角化や新事業への取り組みを実施もしくは検討していること

(3) 活動期間

令和7年2月下旬まで。回数や頻度は各企業の課題に応じて設定します（目安は月に1～2回程度）
現場診断・・・経営者問診、問題点の調査、VSM（バリューストリームマッピング）作成など
改善指導・・・現場診断での改善策に基づく指導、新たなビジネスモデル提案など

(4) 指導料

1時間あたり5,000円（最大4時間）
※インストラクターの交通費についても別途ご負担をお願い致します
※本活動（現場診断、改善指導）は1回あたり最大4時間です

4. 応募の手続き

(1) 募集期間 **令和6年5月7日より受付開始** ※応募企業が予定数に達し次第、募集を終了します

(2) 応募方法

参加を希望する企業は次ページ記載の事務局までご連絡ください。そして、事務局が指定する指導申込書に必要事項を記載の上、事務局にご提出ください。下記の基準に基づき書類を審査します

(3) 審査基準

- ①山形県内に所在する製造業の企業
- ②経営者が経営革新・生産革新に取り組む意思を有している
- ③事業の多角化、新分野進出、新事業への参入を検討している

ご利用者様からの声

- ・整理整頓の習慣化により在庫削減が実現、収益増（単価アップ）につながった
- ・ものの見方や考え方を変えることを、理論的にわかりやすく教えていただいた
- ・課題に対する多方面なアプローチ方法があることを学びました
- ・数値による自社の現状把握を行い、課題が明確になった
- ・経営者が従業員に直接言えないような事をも、第三者の立場ではっきり言ってもらえたのが良かった
- ・部下とのコミュニケーション力が向上した
- ・若手社員が積極的になってきているのを感じる
- ・従業員の意識向上が図られた

